地域に根ざした魅力ある学校づくり

~ 支えの中で、育ち、学び、成長する ~

根小屋小学校 高野 朝枝

I 研究のねらい

本校は創立140年を越える伝統があり、 家族は代々根小屋小学校に通って学んできているという家庭が多い。従って、地域ぐるみで学校に対する温かい思いや願い、また期待が強く、学校は地域のコミュニティとしての機能が求められている面を強く感じる。

地域の環境として、昨年度は広域道路が開通し、以降交通量が増加してきてはいるが、まだまだ自然豊かな環境である。在住する地域の方々は、地域に愛着をもち地域性を活かした様々な活動を行っている。

地域とともにある学校としてその在り方を さぐり、地域に根ざし地域性を活かした魅力 ある学校づくりをしていくことが、「子どもが 育ち、学び、成長」する上で必要不可欠なこ とであると考えた。

Ⅱ 主題設定の理由

相模原市では、学校運営力や教師力を高めるための施策として「さがみはら未来をひらく学びプラン」を策定している。その中には、魅力ある学校づくりをめざし、地域に根ざした特色ある学校づくりの推進が示されている。「子どもは地域で育ち、地域で学び、地域に支えられて成長している。従って、学校もまた、地域ではぐくまれる存在であるために、地域に開かれ、地域の教育資源を活用していくことが求められます。」とある。

子ども達が、地域の中で地域の力を借りて 成長していくためには、まず学校としては地 域に開かれた学校づくりを進め、学校が自己 改善を図っていく必要がある。また、地域と の連携を進め、地域に愛着をもち、地域の様々 な教育資源を活用していく必要がある。

日々の学校生活一つをとっても、学校教育は学校だけではどうにもならない。「登下校」についても、当たり前のように元気に登校してくる児童の安全や安心は、学校を近くで支えてくださる地域や保護者の理解や協力を得ることができなければ得る事ができない。

「おはよう」と明るく声をかけ道路の安全な 横断を支えてくださる方々の存在は大きい。 また、圏央道の開通に併せて広域道路が通学 路にできたときには、地域や保護者の力をお 借りして、2ヶ月あまりで交差点への信号機 設置が実現した。地域が一つになって学校を 支え、応援してくださる力のすごさを実感す る事ができた。

学校農園については、広範囲の土地にさまざまな野菜を育てることができるのも、地域の方のお力をお借りしている。農園活動についての知識や経験が少ない教職員を助け、手を貸しアドバイスをいただけることが、本当に有り難い。

そのような地域 や保護者の力に支 えられている学校 は、それを当たり 前のことと思って いてはいけない。

このように、子



ども達が、地域の中で地域の力を借りて成長していくために、まず学校のすべき一番大事なことは、地域に開かれた学校づくりを進めていくことである。また、地域との連携を進め、地域に愛着をもち、地域の様々な教育資源を活用していくことである。そこから、子ども達は様々な事を学び、成長をすることができる。

Ⅲ 学校教育目標

平成26年度着任以来3年間に渡り「子どもの根っこを太くたくましく」を重点教育目標に掲げ、特に「一人ひとりの子の自己肯定感を育てる」ことを全ての教育活動の中で取



「自己肯定感を育 てる」ために、学校 では教育課程の中の 様々な機会を捉えて 意識的に場づくりを

り組んできた。

行い、人との関わりの中で考えたり気づいた りしながら実感を通して学ぶ機会を設けてき ている。

学校経営方針としては、

- 1 学級経営及び学習指導を通して自己肯定 感を育む
- 2 児童指導
- 3 校内研究の充実
- 4 地域との連携
- 5 危機管理 意識強化·防災教育
- 6 保護者への誠実な対応
- 7 行事への取り組み ねらいの明確化
- 8 道徳教育の充実 自己肯定感に重点

子ども達が大事にされていると実感し、安心して生活することができるように、重点目標である「自己肯定感を育てる」の具現化に向けて、具体的な経営方針を設定し、全教職員が一丸となって教育活動を行った。

特に、4項目にあるように、学校の考えや 児童理解・指導の方針等を地域のみんなが了 解していて、その視点に立って児童を見取り、 理解し、関わりを持ってこそ教育効果がでてく るという考え、「地域との連携」については、 地域に学校を開き、学校の考え方や情報を積極 的に発信することが大事であると考えている。

Ⅳ 実践の概要

「地域とともにある学校」として、学校と 地域が子どもの実態について認識を共有した 上で、どのような子どもを育てるか、何を実 現していくかという目標を共有する必要があ る。

目標を明確に設定し、学校運営の実現に向けて学校と地域が相互に理解を深め、信頼関係を構築することができるよう、校長としてマネジメント力を発揮し、体制づくりを進めてきた。

地域との連携を図るための取組内容を、次 の5項目まとめてみた。

- 1 学校を地域に開く (P2)
 - (1) ホームページ、学校だよりの発行
 - (2) 地域の方も出席する卒業式
 - (3)祖父母・父母学級の実施
- 2 学校が地域へとびだす (P4)
 - (1) 職場体験
 - (2) 大根販売と大根配り
 - (3)地域の行事への参加
- 3 学校と保護者の関係づくり (P5)
 - (1) 紅葉まつりへの協力
 - (2)「根っこ隊」結成
- 4 学校評価 (P6)
 - (1) 教職員自己評価
 - (2) 保護者アンケート (学校評価参考資料)
- 5 その他 (P7)

(地域の外へ) NHK 全国学校音楽コンクール出場

1 学校を地域に開く

(1) ホームページ、学校だよりの発行

学校と地域の相互理解と信頼関係づくりに は、学校からの積極的な情報提供を図ること が大切であると考えた。そこで、学校から家庭や地域社会に向けての情報発信や学校だより、学級だよりにより学校の方針や説明、それについての保護者や地域の理解の促進、保護者や地域に対する学校の要望の伝達、行事日程等についての連絡、学校や子どもの様子の伝達、学校教育に対する保護者や地域の啓発を目的にタイムリーにホームページを更新したり、学校だよりの配付を行った。

学校だよりについては、平成26年度は58号、 平成27年度は52号を発行。3年目の平成28 年度についても同様のペースで学校(学校長)が 考えていることや学校や児童の情報を保護者や

ている。特に、学校 教育目標(自己肯定 感を育てる)につい て、理解を深め学校 での具体的な取り 組み状況や児童の 姿をタイムリーに 伝えていくことに 心がけた。

地域(回覧)に伝え



ホームページに

ついても同様、タイムリーに学校の情報をお 伝えしてきている。地域や保護者の方々に浸 透し、楽しみに読んでくださる方も増えてき ている。

別添 P8「学校だより」参照

(2)地域の方も出席する卒業式

卒業生のご家族だけでなく、地域の方々や 在校生の保護者にも出席を依頼し、できるだ け大勢の方々の祝福のもとで卒業式を行うよ うに計画を立てた。卒業証書授与の流れを事



来校してくださった。

前にお知らせすると共に、「送る言葉」「別れの言葉」の際にも、出席者を意識し、すべてステージ下のひな壇を利用し、卒業生の家族、在校生の家族、来賓や地域の皆様にしっかり児童の顔を見ながら卒業生の思いを聴いていただくようにした。

地域の方や在校性の保護者の方には、平服 でご出席いただくようお伝えし、途中の入退 室についての注意をお願いした。

5年生の保護者が多く出席してくださったり、中には職場体験の受け入れ先の事業所の方が出席くださるなど、卒業生の保護者だけでなく大勢の方の祝福をいただいた。

「子ども達が入場してくるのを見たら、も う涙が止まらなかった」と職場体験でお世話 をしてくださった方からも感想をいただい た。子ども達も来てくださったことを大変喜 んでいた。

(3)祖父母・父母学級の実施

授業を観けれるのではなり、要がよりの要があると対している。ないなり、はないのではいい、



護者の理解を得るよい機会でもある。

本校では平日に学校に来ることが難しい保護者のために、そして代々根小屋小に通っている祖父母の方々にも是非お越しいただけるよう、名称を「祖父母・父母学級」とし土曜日に授業参観を実施している。当日は大勢のご家族の方々、地方からもわざわざ来校くださる祖父母の方々、兄弟姉妹等の参観者であふれた。そんな中、精一杯頑張る子どもの姿がたくさん見られた。感想にも、孫の頑張る姿を喜んでくださっていることや、ご自身が通学していた当時を懐かしむ内容が書かれていた。

<祖父母感想>

○いつも孫がおせわになりまして、ありがとうございます。生徒数は少ないのですが、きめ細かく、あたたかい指導で孫達ものびのびと楽しそうで喜んでいます。6年生の発表もそれぞれ個性を発揮してとても活発でした。3年生の音楽も、とてもユニーク、私たちの子どもの頃の音楽指導とまた違うなと感心しました。合唱は、すばらしい(3年生も)とてもきれいなハーモニーでした。とてもいいー日となりました。 (祖父母)

○幼い頃から引っ込み思案な娘でしたから、 一年生になって 2 ヶ月半、思案しておりまし たが、何とかみんなと一緒に行動しているの を見て、安心しました。先生のご指導の賜と 感謝しております。有り難うございます。

(保護者)

2 学校が地域へとびだす

(1) 職場体験

6年生が総合的な学習の時間の学習として、 職場体験を実施した。

<目的>

人との関わり合いの中で、社会性を身につけるとともに、仕事の大切さや働いている人の思いや願いに気づくことができる。また、仕事をしている親への感謝の気持ちをもつことにつなげ、今までの自分自身を問い直し、これからの自分の生き方について考えることができる。

<実施計画>

職場体験を通じて、自分達の身近な地域に 目を向け、積極的に関わり仕事をしている人 達の熱意や愛情、仕事に向かう真剣な姿勢を 感じてほしいと願っている。また、自分の親 もそのように仕事をして、これまでの自分た ちの小学校生活を支えてくれているという、 親への感謝の気持ちにつながることを願って いる。

さらに、地域に愛着を感じ大切にする心を 育てたいと考えている。そして、ここで得た 経験を自分自身で整理し、これからの生活に どう生かしていくか考える子どもを育ててい きたい。

<育てたいカ>

①地域にある店や施設、仕事内容を継続的に 調べていく中で、仕事に関する知識の幅を広 げ、多面的な視野で考え行動する。

【探究する力】

②職場を通して、地域に目を向け、仕事をしている人々の熱意や愛情、厳しさを感じる。

また、仕事をしている 親の有り難みを感じる力】 る。 【感じる力】 ③実際に仕事を体験する活動を通して、大生事の大変さや工夫、大切してを実感し、仕事をてもかったちの感謝の感謝への感謝の



気持ちをもち、これからの自分の生活に生か していく。 【実践する力】

④仕事に対する人々の姿勢に触れ、これから の自分の生き方について考えを深め、共に生 きていこうとする。 【共に生きる力】

<体験後の話し合いの内容>

【職場体験の振り返り:気づきや学び】

- ・仲間とのチームワーク
- ・気配り 子ども目線で行動(保育園)
- 何回も同じ事を言われない
- 仕事をしている人の思い
- 自分から話しかける
- 失敗しても、気持ちを切り替える
- ・優しさと厳しさが大事
- 面倒くさくても、しっかりやる
- 言われる前に行動する
- 親の気持ちが分かった
- ・ 手作業の凄さ
- ・ 文句も言わずにやっていた
- ・大変な仕事も真剣にやっていた
- お客さんへの気遣い、声かけ
- ・あいさつと態度が大事 等

*子ども達から出された思い

地域の多くの機関や事業所のご協力を得る 事ができたことに感謝している。事前の打ち 合わせにより、職場体験のねらいをふまえて 子ども達と関わり、声かけをしてくださった ことによる学びは大きい。自分のことを知ら ない人ばかりの中だからこそ、子ども達は自 分を見つめ直し、自分を知るよい機会となっ た。

(2) 大根販売と大根配り



早朝より大根を収穫し、丁寧に土を落とし販売できるよう整え、店頭へ!

「JA あぐりんずつくい」のご協力のもとで、大根販売を体験した。地域の方や保護者が来店し、「子ども達が作った野菜だから、いっぱい買っていくよ!」「立派な大根だねー」など、温かい言葉をかけてくださり、子ども達は地域の方に大事にされていることを実感した。また、自分達がつくった野菜を販売まで体験することも、貴重な体験となった。

(3)地域の行事への参加

「海の日」コンサート

毎年、「海の日」にちなんで串川の地域センターで「海の日コンサート」を開催している。本校では、合唱を地域の方々に是非聴いていただこうと、昨年からコンサートに参加をしている。平成28年度は、合唱に弦楽四重奏(主催者側の協力)が加わり、昨年以上に豪華な発表を披露する事ができた。

参加した児童も、練習の成果を地域や家族 の前で発表することができ、大満足。



このように、地域に学校を開くことにより、 地域の方々に学校を知っていただくよい機会 となり、また子ども達にとってもたくさん拍 手をいただき褒めていただく機会となった。

頑張って練習してきた成果が実感でき、地域の関わりの温かさを実感することができた子ども達です。

3 学校と保護者の関係づくり(PTA活動) (1) 紅葉まつりへの協力

子ども達が縦割り班ごとに協力し合いながら工夫した楽しいブースをつくり、異学年や地域の人達と交流し関わりを深める目的で実施している。また、社会福祉協議会や少年補導員の方々もご参加くださり、ゲームのブースや、紙飛行機づくり・コースターづくりのブースを用意してくださるのも有り難い。まさに地域ぐるみで学校を盛り上げてくださる紅葉祭りである。更に、PTAの皆さんによる豚汁づくりが紅葉まつりを盛り上げてくださるのも恒例となっている。

学校農園で子ども達がつくった大根、里芋、 ニンジンをつかっての豚汁づくり。



くいき間をようしました。 のご参加をいただき、一緒に地域の方や祖父母の方々

紅葉まつり前日から、 豚汁の準備に保護者が 大勢かけつけ、当日も 含めて多くの方々の支 えをいただいた。

PTAの皆さんの豚 汁を当日の参加者全員 でいただき、その後全



校合唱を聴いていただいた。たくさんの言葉 を保護者や地域の方々からかけていただき、 「心もお腹も満腹」の全員参加の行事となった。

(2)「根っこ隊」結成

本校には、地域の方々に児童の登下校と放課後の安全を守っていただく為に、「守レンジャー」という組織があります。

しかし、地域の方ばかりにお願いするのではなく、保護者もまた自分達の子どもを守る事が大切ということで、平成27年度より、お子さんが小学校に在籍している保護者の方々をメンバーとして「根っ子隊」を立ち上げた。

串川地域振興協議会や本校PTA本部のご協力のもと、背中に「根っこ隊」と大きく書いたピンクのビブスを新調し、登下校時に通学路のあちこちで着用し立って登下校を守ったり声かけをしたりしてくださっている。

忙しい朝にもかかわらず、明るい声で「おはようございます」と挨拶をしてくださり、明るい気持ちで一日をスタートできることが、とても有り難い。子ども達は、地域や保護者に見守っていただいている「安心感」と大切にされている「大切にされ感」を実感することができる。



4 学校評価

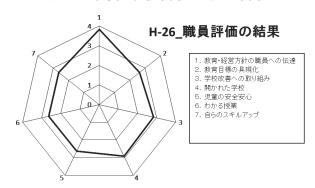
(1) 教職員自己評価

平成26年度より3年間、同7項目で自己 評価を実施 *下線部には具体的内容を提示

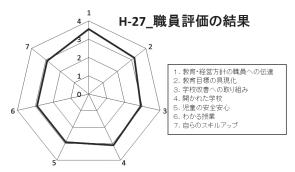
<評価項目>

- 1 学校長の**教育方針・経営方針**は教職員に明確 に伝わっている。
- 2 あらゆる教育活動を通して、学校教育目標の 具現化を図ろうと心がけた。
- 3 よりよいものを目指し、さまざまな学校改善に 取り組んだ。
- 4 「開かれた学校」を目指し、**地域・保護者と の連携**を推進しようと努めた。
- 5 **児童の安全で安心**した学校生活を保障できる ような教育活動に努めた。
- 6 一人ひとりにわかる授業に取り組んだ。
- 7 積極的に自らのスキルアップに取り組もうと努力した。

平成 26 年度 学校評価 (自己評価)



平成27年度 学校評価(自己評価)



児童の実態から、学校の重点教育目標を「自己肯定感を育てる」と定め、全教職員で組織的・計画的に取り組んでいくために、基本的な考え方や方針を明確に設定した。そして、

校長として、職員会議や打ち合わせ、学校便り、保護者会、PTAや地域での会議等で学校経営方針を明確に、且つ具体的に、教職員・保護者・地域に示し、同じ思いで児童を育てていくことができたことは、一つの成果であると考える。

教職員一人ひとりが、学級及び学校全体の 実態を把握し、自己肯定感を育てるべく取り 組みを積極的に行うことができた。特に平成 27年度はボトムアップ方式で学校経営を行ったことにより、総括教諭を中心に教職員の 参画意識が高まったことを感じた。

(2) 保護者アンケート(記名式)

<アンケートの視点>

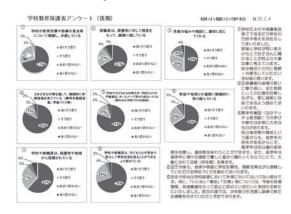
- 1 学校の教育目標、重点指導の理解と共感
- 2 教職員の保護者への対応について
- 3 授業について(学習のルール、基礎基本、 分かりやすく楽しい授業 等)
- 4 異学年集団での仲間づくり
- 5 学校を(通信、ホームページ)
- 6 地域との連携
- 7 日常の安全指導
- 8 児童の様子(挨拶の励行、学習への取り 組み、楽しく通学、自己肯定感)

このような内容について15の質問項目を 作成し、記名式アンケートを実施している。

今年度1学期末に実施したアンケートは、 93%の回収率となるなど年々高まっている。 学校への関心の高さを実感し、ご協力くださ る思いに改めて気が引き締まる思いである。 集計結果及び分析と今後の対応については、 学校だよりで各家庭に知らせたり地域へは回 覧でお伝えしたりした。

また、自由記述についての回答は、個別に対応し、直接学校としての考えを伝えていった。学校改善のための参考資料としてのアンケートではあるが、保護者から学校や担任への励ましの言葉も多くいただき、また気づかずにいた点や率直なご意見等を伝えていただ

くこともできた。



保護者アンケートは1学期末(7月)と2 学期末(12月)の年2回実施している。学校経営は校長や教職員の自己満足であってはいけないという点からも、保護者のご意見をいただく機会は非常に貴重である。地域に学校を開くという面からも、地域へ結果を知らせることも併せて行い、理解を得ている。全体的に教職員が元気が出るアンケート結果を得ることができ、理解と支援に感謝している。

5 その他

(1) NHK全国学校音楽コンクール出場

平成27・28年ともに8月。根小屋地区から、横浜へ。神奈川県コンクールに出場するために、相模原市から飛び出して、横浜の県立音楽堂へ行き合唱発表を2度果たした。



子どもの人数を遥かに上回る多くの家族の 応援団に支えられ、達成感や「大切にされ感」 を実感しました。

成果と課題

H-28 職員評価前期の結果

- 1. 教育・経営方針の職員へ の伝達
- 2. 教育目標の具現化
- 3. 学校改善への取り組み 4. 開かれた学校
- 5. 児童の安全安心
- 6. わかる授業
- 7. 自らのスキルアップ

4の項目である「開かれた学校」について、 教師の具体的な取組を紹介する。

○クラスで行う活動や学習の様子など、 保護者がなかなか知ることができない様 子やお知らせを伝えることができた。

○保護者に向けて、毎日3,4人に手紙 を書き続けた。自分の子が何を頑張って いるのか、教師がどのように思っている のかなどが伝わるようにした。

○保護者の姿が見えたら、一日の子ども たちの様子を伝えるように心がけた。

このように、大きな変化は教職員が地域や 保護者に視点をおき、常に連携のスタンスで 教育活動を進めてきたことである。保護者や 地域にも思いが伝わり、「自己肯定感の育成」 について双方向での理解が可能になった。

独りよがりではなく、様々な視点で「より よい子どもの育成」「自己肯定感の育成」を 考えていくために、学校は地域や保護者の力 を借りて更なる充実を図り、地域に開かれた 学校づくりを推進することが大切であると改 めて感じる。

「持ちつ持たれつ」の関係としては学校と して足りない部分が多く、地域や保護者に頼 る部分が多く感じている。まさに、地域に育 てて頂いて学校経営ができ、子ども達は、「根 小屋地域」の限りない力から、学び、成長し ている。

今後は教師も子どもも、更に地域に飛び出 していき、地域の歴史やよさを実感し、地域に 貢献する視点を育てていきたいと考えている。

別添「学校だより」

相模原市立根小屋小学校 学校だより -

5000 本長っ、 ~子ども一人ひとりの自己肯定感を育てよう~

平成27年7月17日 NO. 22 校長 塞野 朝枝

ピンチはチャンス満載だった1学期

「信号機がつかない」というピンチな状態で平成27 年度がスタート!学校がいくら頑張っても、どうにもな らないこの状態を、どのように対処していくかに追われ た4月、とにかく、「微力ではあるが、学校ができるこ とを最大限やっていくしかない。」と覚悟を決めて進ん できました。でも、「ピンチはチャンス」でした。「お 陰様」という言葉がぴったり当てはまると思うほど、 くの皆様のお力添えがあり、そのお陰様で昨日信号機設 置となりました。学校・地域・保護者・警察が一体とな



ることができた、よいチャンスとなりました。 また、昨日の下校時のタイミングで教育長や局長が、信号機設置後、初めて横断歩道を進

『児童の下校の様子を見に来てくださいました。すっと 心配をしてくださっていたので、元気に下校する子ど も適の姿を見て、安心していただくことができました 子ども違にとっては、今まで会ったことがない方々(数 育長や局長) までも、心配してくれていたことが伝わ るよい機会となりました。 まだ、下校時に子ども違から、いつもお世話になっ



ている警察の方々やガードマンの方々に手紙を進しま した。きっと今頃、皆さんで読んでくださっているこ とと思います。これも、やはり良い勉強となりました。 感謝の気持ちを直接伝えることの大切さを、体験を

☆毎日、交差点で見守ってくださ

った駐在所の野田さんへ感謝! 適して学ぶことができたと思います。 ビンチばかりで はなかった!チャンスもいっぱいあった1学期でした。 ・ へ校長から見た教職員・1学期の総括~

①子どもに寄り添い、肉き合い、よく動いた!

②常に全員野球で学校経営に取り組んだ! ④学習指導に力を入れ、分かる書びを味わわせられ

るよう取り組んだ! ⑤学校を開くよう心がけた!

意まじめ、本気、よりよいものを求めていく気持ち



いつも美顔で声をかけてくださった ガードマンさんへ軽調!

18(土)8:00~ラジオ(FM横浜84.7) 1・2年生ジャガイモ掘りが放送されます!

着い中、1・2年生が頑張ってジャガイモ掘りをしました。誰の声かな~?

相模原市立根小屋小学校

校長室より

奇飾なんかじゃあない! 「努力のつぼ」から努力があふれ出したんだ!

10月14日 「努力のつぼ

ンだいよスタートの合図で、一斉に跳び よした。今までにない子ども、横の表明である。 とした。今かしました。 ができました。 なんと27回跳ぶととなっています。 なんと27回跳ぶととすまっています。 なんと27回跳ぶととすます。

大きく上回る記録がでました。「やるときゃ あ やる」6年生の発事な姿に感動しました。 帰校し、早速ホームページにアップしました。 「奇跡が起きだ」と思わす書いていました。 しかし、治静に善えていくと、「あの配録

「努力のつぼ」から努力があられ出たんだ!



奇跡とは・・・ 普通では考えられない、不思議なできごと

当日を迎えるまで、 おんな

11月15日(土) 紅葉製り 毎非ご来校ください。